

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● E-mail: ga-tpc@ginza.co.jp

● このNEWSLETTERは、銀座通連合会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●

1月21日に行われた中間報告会、前号からその内容を詳しくご紹介しております。今回は倉田直道さん（工学院

大学教授）と岡本哲志さん（岡本哲志都市建築研究所）による報告の内容をご紹介します。



「銀座街づくり会議」:: 中間報告会

銀座にふさわしい空間とは？ 考えよう。21世紀・銀座のまちづくり



第2回 倉田直道さん（工学院大学教授）、岡本哲志さんからの報告 銀座の将来を考えるベースになるものは？

銀座まちづくりヴィジョン（倉田）

——銀座には「銀座フィルター」と言われる、見えないルールが機能していると言われてきました。しかし今後、様々な経済環境の変化のなかで、そういった見えないルールだけでまちの姿を維持していくことができるでしょうか。銀座の皆さんが銀座をどのような方向にもっていきたいのか、どういう将来像を目指してまちを考えていくのか、それがベースにない限り、一つ一つの事業やプロジェクトに対して、場当たりの対応しかできなくなってしまいます。ヴィジョンを作成するにあたっては、銀座の将来像と一緒に議論したり、銀座のみなさんとワークショップをしたり、インターネットでアンケートをとったりしました。そういったことをベースに1999年にまとめたものが、『銀座まちづくりヴィジョン』です。

この中では銀座のまちづくりの目標として、①歴史が生き、新しさが生きる躍動感のあるまち、②歩く楽しさが広がるまち、③社会文化的価値が経済発展を支えるまちをあげております。

そして、ヴィジョンの1つめが「水辺の再生と路地の活性」、2つめが「新銀ブラ計画」、3つめが「新しい銀座カルチャーの創造」です。

どうぞあらためて、「銀座まちづくりヴィジョン」を読み直してみてください。

銀座が尊重すべき歴史的視点とは？（岡本）

私は銀座の歴史を研究し続けてきて、銀座が極めてめぐるまれた歴史背景を継承している、と実感しています。こうした素晴らしさをどのように維持できたのかという視点に立って考えてみたいと思います。歴史から銀座の都市デザインの方向性を見ると、3つの尊重すべき点があります。

一つは、銀座には都市文化や様々な魅力的な空間を生み出す、多層な人々の活動がある、ということです。個人的なもの、様々な団体、通り会、町会、旧銀座と旧木挽町、さらに現在もっとも大きな活動の空間範囲である全銀座会。この6つの層が相互に柔軟に関わりをもってきたことが、まず尊重すべき視点だと思います。

2番目に、銀座の都市構造の尊重です。銀座の土地は江戸を維持しながら構造的空間を歴史的に形成してきました。また路地は実に巧みに、空間をいかにも大きく変化させたように見えて、そこで生活している人とその営みを最低限守る空間として維持してきました。そして道は、銀座通りから横丁、裏通り、そして路地が細やかにネットワークし、面的に成立している。これは歴史と文化を維持してきた重要な構造だと私は考えています。これからも、この都市構造、そして現在までつちかってきたこの文化を継承するのかどうか、これは銀座の方々一人一人の大きな決断です。

3番目は、空間サイズの尊重です。日本橋も京橋も1923年の関東大震災以降大きく変化したなかで、銀座だけは江戸時代から現在まで、基本的な構造は大きく変えずに空間を維持してきました。それが空間のサイズにうまく表れています。この空間サイズを尊重するということは、銀座の将来に向けての都市デザインを表現していくうえで重要なポイントだと考えています。恐らく大規模化する空間があると思いますが、都市構造をどのように継承し、それから歴史的に保ってきた空間サイズをどのように表現するか、これが具体的に空間をつくりあげていく上で極めて重要です。

これら3点を意識したうえで、将来的な都市デザインを考えるべきではないでしょうか。

【 当日配布した資料「地区計画『銀座ルール』の考え方」を差し上げます。
当日のビデオをお貸し出します。各町会、通り会、お店等でお役立てください。 】